

（BOX 1）世界貿易量の回復とわが国の輸出動向

世界貿易量が、2016 年後半より、力強く回復してきている。「世界貿易量」が、2011 年以降、「世界GDP」成長率よりも低い伸びを続けてきたことは、「スロー・トレード」と呼ばれ、その背景が幅広く議論されてきた²⁹。もっとも、足もとでは世界貿易量の伸びが世界GDP成長率を再び上回るまで、回復してきている（前掲図表12）。

こうした最近の動きだけをもって、スロー・トレードをもたらした要因がなくなったと判断するのは、なお時期尚早と思われるが、最近の世界貿易量の力強さには、新興国経済の回復が影響していることは確かである。世界貿易量（各国の実質輸入の合計値として捕捉）の動向を地域別にみると、2015～2016 年にかけて弱めに推移してきた「新興アジア」³⁰が、ここにきて大きく増加していることが分かる（図表 B1-1）。

こうしたもとで、わが国からの輸出も、中国および NIEs・ASEAN 等向けの資本財や情報関連を中心に、増加している（図表 B1-2、B1-3）。

中国向けの資本財輸出の内訳を仔細にみると、リーマン・ショック後に中国政府が行った大規模な経済対策を受けて建設・鉱山用機械が伸びを高めた 2010 年頃とは異なり、足もとでは、半導体製造装置や産業用ロボットなどが大きく増加している。スマートフォン、データセンター向け電子部品の需要増加や、中国における人件費上昇を背景とした省力化投資の高まりなどが、わが国から

²⁹ 日本銀行調査論文「スロー・トレード：世界貿易量の伸び率鈍化」（2016 年 10 月）を参照。

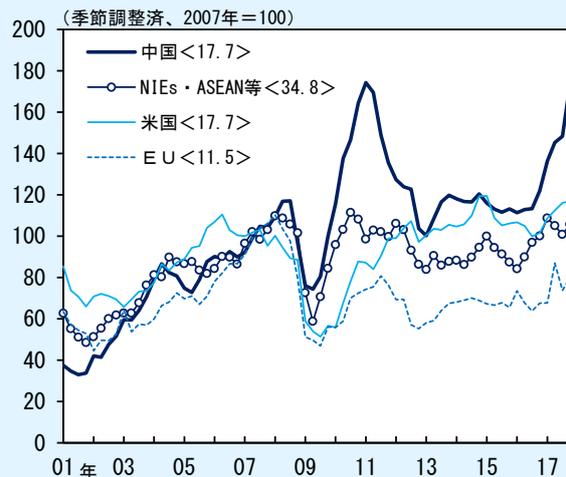
³⁰ ここでいう「新興アジア」には、中国、NIEs・ASEAN 4、インド等が含まれる。

図表B1-1：地域別の世界貿易量



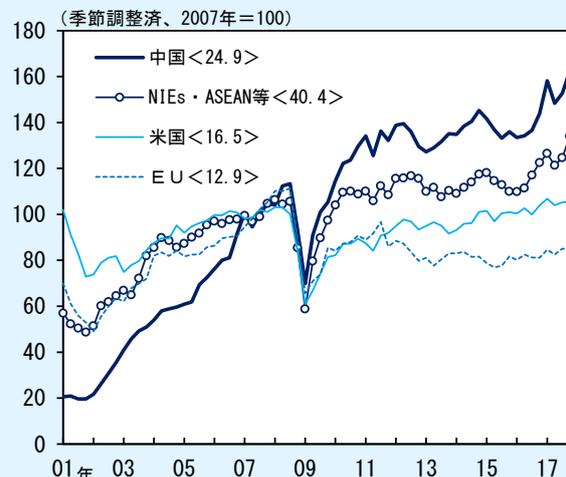
(出所) オランダ経済政策分析局
 (注) 1. 世界貿易量は、世界実質輸入。2017/4Qは、10月の値。
 2. 新興アジアは、中国、NIEs・ASEAN4、インド等。

図表B1-2：資本財の実質輸出（地域別）



(出所) 日本銀行、財務省
 (注) 日本銀行スタッフ算出。<>内は、2016年通関輸出額（資本財）に占める各国・地域のウエイト。2017/4Qは、10～11月の値。

図表B1-3：情報関連の実質輸出（地域別）



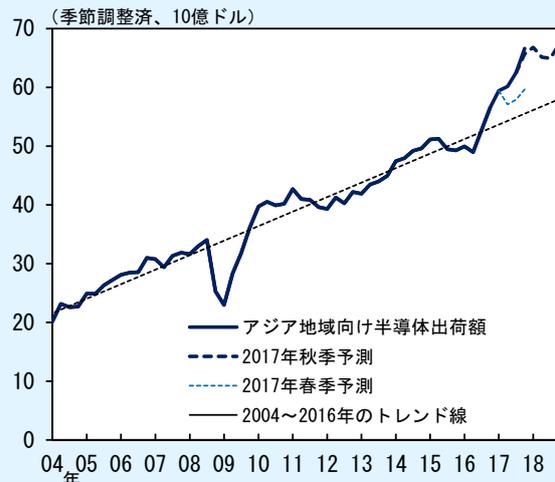
(出所) 日本銀行、財務省
 (注) 日本銀行スタッフ算出。<>内は、2016年通関輸出額（情報関連）に占める各国・地域のウエイト。2017/4Qは、10～11月の値。

の資本財輸出が堅調な理由となっている³¹。

情報関連輸出については、これと相関の高い世界半導体出荷額（WSTS³²ベース）のうち、アジア地域向けをみると、過去のトレンドや WSTS の 2017 年春季予測を大幅に上回って推移している（図表 B1-4）。

資本財や情報関連の輸出は、各種受注統計や業界予測などを踏まえると、先行きもしっかりと増加するものと考えられる。わが国からの資本財輸出に先行する外需向けの機械受注は、増加基調にある（図表 B1-5）。内訳をみると、半導体製造装置が含まれる電子・通信機械や産業機械が堅調に推移しているほか、工作機械も増加している。また、半導体出荷額について、WSTS の 2017 年秋季予測をみると、2017 年は大幅な増加で着地する見込みであり、2018 年もしっかりと増加が見込まれている（前掲図表 B1-4）。

図表B1-4：アジア地域向け半導体出荷額



(出所) WSTS

(注) 1. WSTS を用いて日本銀行スタッフが算出。

2. アジア地域は、アジア太平洋地域（除く日本）。

3. アジア地域向け半導体出荷額の2017/4Qは、10～11月の値。

図表B1-5：機械受注・外需と資本財輸出



(出所) 財務省、内閣府

(注) 2017/4Qは、10～11月の値。

³¹ 中国では、政府による「中国製造 2025」などの方針のもとで、ファクトリー・オートメーション関連投資や半導体製造装置への投資が積極化している。

³² World Semiconductor Trade Statistics.